

外国語学部タイ語専攻とタイ国立シンラパコーン大学文学部との 国際交流



海外交流

村上忠良*

Department of Thai in School of Foreign Studies has overseas exchange initiatives
with the Faculty of Arts, Silpakorn University in Thailand

Key Words : Silpakorn University, Overseas exchange initiatives,
Intensive program in Thai language and culture

はじめに

大阪大学はタイ国の5大学と大学間国際交流協定を結んでおり、さらに外国語学部自体でもタイ国の5大学の人文系学部と部局間学術交流協定を結んでいる。タイ国は、大阪大学と学術交流協定を結んでいる大学が最も多い国の一つである。

これらの学術交流協定には、学生の交換留学協定も含まれており、外国語学部タイ語専攻から、毎年10名強の学生が交換留学生として交流協定校に留学をしている。このようにタイ語専攻の多くの学生が、同世代のタイの大学生と机を並べて授業を受け、友達を作り、タイの大学生生活を経験する。

これらの留学経験は、タイ語運用能力の向上やタイについての知識を得るという点で大きく貢献しているが、それと同時に、青年期の一時期を異文化の環境で過ごすということが当該学生の人格形成やその後のキャリア選択にも大きな影響を与えており、学修の面のみならず人間としての成長を促す機会でもある。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により、外国語学部から交換留学生を一人も送り出すことはできず、大変残念であった。2021年度に関しては、夏以降の留学が少しずつ可能となってきたので、本稿が掲載されるころには、タイの大学への交換留学も再開されていることと期待

している。

以下、本稿では、外国語学部タイ語専攻と特に関係の深いシンラパコーン大学と同校との国際交流について紹介する。大阪大学外国語学部は、シンラパコーン大学文学部と部局間学術交流協定を結んでいる。

シンラパコーン大学

現在、シンラパコーン大学は、絵画・造形美術・グラフィックアート学部、建築学部、考古学部、工芸美術学部、文学部、教育学部、理学部、薬学部、工学・産業技術学部、農業畜産学部、音楽学部、経営学部、情報技術・メディア学部の13学部を有し、学部生・大学院生合わせて約2万5千人が在籍するタイ有数の総合国立大学である。

総合大学であるとはいえ、学部編成が芸術・人文系学部を中心としている点がこの大学の特徴であり、これは大学の設立の経緯によるところが大きい。



図1：シンラパコーン大学の校章
(芸能の神としてのガネーシャ)

シンラパコーン大学の前身は、1933年にタイ政府の芸術局内に作られた「美術学校」である。創設者は、当時芸術局局長を務めていたイタリア人芸術家のコラード・フェローチ (Corrado Feroci) で、この学校にて芸術局の職員や一般の学生を対象に、西洋の絵画と造形美術を教えた。1943年に、この「美術学校」が大学へと昇格し、シンラパコーン大学となる。フェローチはその後、タイに帰化してタイ名



* Tadayoshi MURAKAMI

1966年1月生まれ
筑波大学大学院 歴史・人類学研究科
文化人類学専攻修了 (1998年)
現在、大阪大学大学院 言語文化研究科
言語社会専攻 教授 博士(文学)
TEL : 072-730-5276
FAX : 072-730-5276
E-mail : mrkenthai@lang.osaka-u.ac.jp

のシン・ピーラシーを名乗り、長きにわたってシンラパコーン大学で教鞭をとり、多くのタイ人芸術家を育てた。

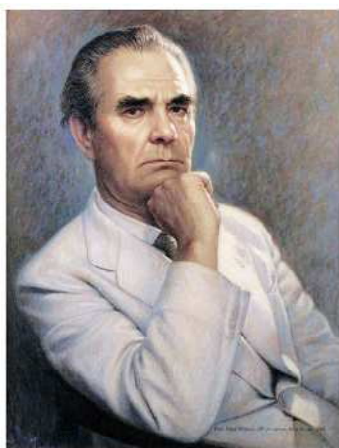


図2：コラード・フェローチ（シン・ピーラシー）
出典：<https://www.inter.su.ac.th/en/about/silpakorn-university/>

建学当初は、絵画・造形美術学部のみであったが、その後すぐに、建築学部、考古学部、工芸美術学部が設置され、タイの高等教育における芸術・工芸分野の中心を担う「芸術大学」として大きな役割を果たしてきた。1968年には、バンコク都内の旧市街に位置するワンタブラ・キャンパスに加え、タイ中部ナコンパトム県にワンサナムチャン・キャンパスを開き、文学部、教育学部、理学部、薬学部、工学・産業技術学部を置き、さらに1997年に開かれたタイ中部のペップリー県のペップリー・キャンパスには、農業畜産学部、経営学部、情報技術・メディア学部の3学部が置かれている。なお音楽学部は、この3キャンパス内ではなく、バンコク都のトンブリー側のタリンチャン区にある。

シンラパコーン大学文学部との国際交流

シンラパコーン大学文学部と大阪大学外国語学部との学術交流協定は、旧大阪外国語大学時代の2002年に始まり、来年で20年になる。2005年にはシンラパコーン大学文学部から、ウィラット・シリワタナナウイン先生が招へい教員として旧大阪外国語大学地域文化学科専攻語タイ語で1年間教鞭をとられた。その後も、タイ語学における教員間の研究上の交流が続いている。さらに、交換留学生の派遣も積極的に行ってきた。筆者が把握している

2004～2020年度の外国語学部タイ語専攻からの派遣交換留学生の数は29名に上る。交換留学は学期単位の留学となり、多くの交換留学生は3年次から4年次にかけて、シンラパコーン大学の学期に合わせて、第1 Semester（6月～10月）、第2 Semester（11月～3月）の約10か月間シンラパコーン大学文学部にて勉強する。

シンラパコーン大学への交換留学で特徴的な点は、大阪大学からの交換留学生が、外国人留学生用の授業コースではなく、文学部の通常の科目を一般のタイ人学生と共に履修することにある。タイ語専攻で2年半タイ語を勉強したとしても、いきなりタイの大学の通常の授業を履修することは、言語能力の面で大変難しいのは事実である。しかし、同じクラスのタイ人学生の手助けや、タイ人教員の手厚いサポートにより、なんとか授業についていくことができ、単位を取得することができている。

その一方で、大阪大学からの交換留学生は、シンラパコーン大学の文学部日本語学科のタイ人学生の勉強を手伝ったりもしており、学生同士の相互扶助の関係を上手に作り上げて、留学生活を送っている。

夏季タイ語研修

大阪大学外国語学部タイ語専攻では、Semester単位の交換留学とは別に、毎年夏休みの期間中、シンラパコーン大学文学部で約1週間の「夏季タイ語・タイ文化研修プログラム」を実施している。

本研修は、タイ語専攻でタイ語の基礎を学習している1・2年次の学生を対象としたものである。タイの現地においてタイ人教員による、参加学生の語学能力に合わせたレベルのタイ語によるタイ文化・タイ史に関する講義と、遺跡や史跡を巡るエクスカーションからなる内容である。タイ語で、タイ文化の基礎的な知識を得て、「言語を通して文化を学び、文化を通して言語を学ぶ」（外国語学部の教育目標モットー）を実践することを目的としている。

タイに行く前には、エクスカーションの訪問先であるアユタヤ遺跡とカーンチャナブリーの史跡について事前学習を行う。アユタヤは、日本の商船による南シナ海の交易が盛んとなった16世紀末から17世紀初頭に、日本町がつくられたタイの旧都であり、カーンチャナブリーは、第二次世界大戦期にタイに進駐した日本軍によって泰緬鉄道が敷かれた地であ

り、近代における日タイ関係の一側面を記録する重要な史跡である。

エクスカージョンで日タイ関係に深くかかわる遺跡・史跡を巡り、知見を深めることは、学生個人が「なぜ日本の大学でタイ語を勉強するのか」という点に関して、日本とタイとの関係を自分なりに見つめ直す機会となっている。



写真1：アユタヤ遺跡にて



写真2：カーンチャナブリーのクウェー河（クワイ河）にて

シンラパコーン大学の授業内容は、タイ史のみならず、タイの伝統衣装を着たり、料理や伝統行事で使う「お供え物」を実際に作ったりするタイの文化や慣習についてのワークショップもあり、当該社会の文化・慣習への理解を深めるものである。衣食住や行事などでの慣習的身体行為が、タイ文化における言語外のコミュニケーションにおいても重要な要素であることを学ぶ。

また研修期間中には、シンラパコーン大学文学部の学生との交流を行い、同年代のタイの学生から、自らの関心のあるタイについての事柄・トピックなどを教えてもらい、座学では得ることが難しいタイの現代文化や若者文化についての知識も吸収する機会となっている。



写真3：「お供え物」作り

おわりにー夏季研修から交換留学へー

この夏季研修に参加した経験は、2年次後半から本格化する外国語学部における専門教育への基礎知識となると同時に、大学の残りの在学期間における研究へのモチベーションを大きく向上させるものである。2年次後半以降の専門教育では、タイ語運用能力を活用し、タイの言語・文化・社会についての理解を深め、卒業論文を執筆することが求められる。大学生生活の比較的初期に、自らタイの現地で「見聞した」・「体験した」経験は、専門教育における研究活動の基盤を提供し、今後の卒業論文の研究課題の設定にも積極的に大きく寄与している。

特に、シンラパコーン大学での短期研修を通して海外留学への関心をもち、3年次以降にタイの大学に交換留学生として学びに行く学生が、この研修修了者の中から数多く出てきている。タイ語専攻では、シンラパコーン大学での夏季研修を行うようになってから、交換留学制度を利用して海外に行く学生が増加し、1学年の定員15名に対して、そのうちの3分の2にあたる10名前後の交換留学生を毎年タイの大学に派遣している。海外への留学が多い外国語学部の中でも、タイ語専攻における留学経験者の割合は非常に高い。5か月や10か月の交換留学の前に、まずは短期研修で実際に自分の目でタイの大学の様子を見て、タイの大学への留学はどのようなものかを実際に経験できることは、交換留学を志す学生を増やすことにおいて大きな効果があるといえる。